

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 多摩市立聖ヶ丘小学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒 206-0022

東京都多摩市聖ヶ丘 3-66

E-mail daihyo-hijirigaoka-sho@city.tama.ed.jp

Website <http://www.tama.ed.jp/hijirisho/>

幼児児童生徒数 男子 122 名 女子 117 名 合計 239 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「考える子・助け合う子・元気な子」の育成を学校教育目標と、ESD を「全教育活動を通して主体的に問題解決できる児童を育成すること」と捉え、ESD の実践を通して主体的に問題解決できる力の育成を目標とした。

具体的には、生活科、総合的な学習の時間を柱に、①「まちづくり」に係わる活動、②「環境問題」に係わる教育、③「福祉」に係わる学習、④「食育」に係わる学習を行った。

① 「まちづくり」に係わる活動

6 年「聖ヶ丘をすてきな町に」（住みよい町づくりを行政に提案する）

「平和のとりでを築く」（戦争と平和について考え、実行する）

人、社会、自然との関係性を意識し、その大切さを実感できる学習を積み重ね、「関わり・つながり」を尊重できる児童を育成することができた。

② 「環境問題」に係わる教育

5年「米からみよう、日本と世界」

社会科の食糧生産の学習、学校の田んぼでの米作り体験を通して環境問題・食の問題を探究していく。収穫した「聖っ子米」で収穫祭を行い、保護者や地域の方に米作り体験を通して学んだことを発表し、日本食の良さ、米の大切さを広く伝えることができた。

③ 「福祉」に係わる学習

3年「広げよう友達の輪」（特別支援学校児童との交流）

4年「つながろう聖ヶ丘」（高齢者施設入居者との交流）

地域に通う特別支援学校児童や地域にお住まいの高齢者とのふれあいを繰り返すことで、共に暮らす人々の存在に気づき、改めて町の良さを実感することができた。地域に名前呼び合える人が増えることが安心して暮らすことにつながり、誰にとっても住みよい町が「共生」を支えていることを学ぶことができた。

④ 「食育」に係わる学習

4年「ひじりっ子エコ隊」（主にゴミ問題を学習材とした環境学習）

給食の残菜調べや栄養教諭による「残菜のゆくえ」をテーマとした授業を通して「食」への関心を高め、自分たちにできることを模索し、「作り過ぎない・買い過ぎない・できるだけ食べ残しを出さない」など、できることを実践した。実践した結果を考察し、まとめ、発信したことは、活動を価値付けることにもつながった。



① ありがとうコンサート



② 田んぼの整備



③ 特別支援学校児童との交流



④ 給食残菜の計量

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input checked="" type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input checked="" type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

「今日よりいいアースへの学び」

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ESDカレンダー、生活科、総合的な学習の時間の全体計画及び年間指導計画を作成し実施した。今年度の取組を組織で適正に評価した上で、来年度に向け見直し、修正を加えた。

児童に身に付けさせたい資質・能力を明確にし、可能な限り児童の主体性を引き出すため教師がファシリテーターに徹して指導したことで、児童に「自分たちの力で何とかしたい」思いをもたせることができた。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

SDGsの17の目標を全教室に掲示し、学習のねらい、内容、振り返り等を目標と照らし合わせて行うことで、意識化を図っている。

毎月の職員会議で活動状況を報告し合うことにより、各学年の取組が組織全体で共有でき、学習活動を組織としての取組にすることができている。また、報告を受けて教員同士で助言等を行うことで計画を見直し、児童の実態に合わせてカリキュラムを柔軟に修正することができた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

12月に保護者、地域、学校運営連絡協議会委員に対し、学校評価（校内・外部）を依頼し、集計、回答、公開（評価結果の開示・報告）を行った。

児童が地域に出て活動する機会が増えたことは、地域の方に学校の様子、児童の様子を知っていただく機会の増加につながり、元気に挨拶ができ、懸命に学習に励む様子等をたくさん褒めていただいた。児童の活躍の場を今後も模索していくことが課題としてあがった。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

地域のコミュニティセンターのホールでの活動成果発表会、学校間交流での交流会など発信する機会を多く設けたことで、学習したことを全校児童、保護者、地域、他校に伝えることができた。発信に向けた準備の過程で児童は自らの活動を振り返り、価値付け、伝える相手を意識して生き生きと表現することができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

多摩市教育委員会
特別支援学校との学校間交流
近隣の保育園
聖ヶ丘コミュニティセンター「ひじり館」
稲城多摩防犯協会聖ヶ丘支部
地域の商店街 スーパー・郵便局・駐在所・デイサービス施設等
地域にある高齢者施設「ゆいま～る聖ヶ丘」株式会社コミュニティネット
地域の農家
多摩稲城日野保護司会
多摩市スポーツ振興会

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

全国大会に参加し、他校の優れた実践を学ぶことができたため、次年度は学校間交流を実施できるよう準備を進めていく。
全小中学校がユネスコスクールに加盟している多摩市では「多摩市子どもみらい会議」を年に1度開催している。本校は発表校として6年児童が1年間の活動を市内全校に向け発信した。

- ⑧ ユネスコス쿨の活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項2-5に対応

課題を「自分事」ととらえ、問題解決に向け協同的に試行錯誤する取組を通して、児童に「他者と協力して課題解決する力」「自分の考えを発信する力」を育むことができた。提案して終わりにせず、自分たちも率先してやり続ける行動力が育まれるとともに、その活動を広め、普及させる取組へと発展させることができたことが大きな成果と言える。

(3) 平成30年度の活動計画（200～400字程度）

年間70時間の「総合的な学習の時間」を主な活動の軸とし、児童の主体的な探究活動を引き出しながら、持続可能な開発のための教育を推進する。
3年「広げよう友達の輪」（特別支援学校児童との交流）
4年「つながろう聖ヶ丘」（高齢者施設入居者との交流）
「聖っ子エコ隊」（主にゴミ問題を学習材とした環境学習）
5年「米からみよう、日本と世界」（米作り体験を学習材とした環境学習）
6年「聖ヶ丘をすてきな町に」（住みよい町づくりを行政に提案する）
「平和のとりでを築く」（戦争と平和について考え、実行する）
人、社会、自然との関係性を意識し、その大切さを実感できる学習を積み重ね、「関わり・つながり」を尊重できる児童を育成する。